

令和元年度 福井型コミュニティ・スクール 実施報告書

大野市有終南小学校

1 「家庭・地域・学校協議会」の運営について

(1) 「家庭・地域・学校協議会」の構成

＜家庭＞	＜地域＞
・保護者 2名	・区長会代表 1名
	・スポーツ少年団代表 1名
	・地域住民 2名
＜学校＞	
・校長、教頭、教務主任（3名）	
※地域コーディネーター（1名） 勤務先 一般企業 元 P T A副会長	

(2) 協議会の内容

- ※開催回数 4回
- ※開催日程 4/26、10/14、11/28、2/18
- ※協議内容
 - ・授業や学校行事の参観および地域での児童の様子についての意見交換
 - ・学校の教育活動に対する評価・分析および改善策
 - ・家庭・地域・学校の連携

(3) 協議会における成果と課題

年間4回ある学校開放日には、いつも多くの協議会委員が参観に訪れ、児童の一生懸命に頑張る姿を見てもらうことができた。その後の話し合いでは、年々学校が落ち着いていっていると感じることやあいさつがよくなっていることなどが話され、学校の日々の取り組みが評価された。課題として話し合われたことは、児童がより良い方向に成長していくためには、これまで以上に保護者を含めた地域住民が手本を示したり、深く関わり合ったりすることが大切である、ということだった。

2 地域と進める体験活動

(1) 活動のねらい

3年生から5年生までの児童が、家庭・地域の協力を得ながら、大野市の水にスポットを当て、大野の水文化を探究する活動を行う。そして、活動を通してふるさと大野の宝である水資源の保全に努め、ふるさと大野への誇りと愛着をもたせる。

(2) 活動の実際

① 「大野の水で食文化」(5年生)

児童は3・4年時に大野の水とその周りの環境、そして水に育まれる命について学ぶことで、水の大切さを実感することができた。5年生では、その水がもたらす身近な「食文化」について学ぶことにより、自分と水とのつながりについてさらに深く考えたいという思いのもと、「大野の水で食文化」というテーマで活動を始めた。まず一番身近な食である「米」づくりについて、田植えから体験した。田植えの経験も、裸足で田んぼに入る経験もない児童が多かったが、阿難祖生産組合の方に活動の説明を聞く時から、楽しみにしている雰囲気伝わってきた。実際に田んぼに入ると、初めての土の感触に戸惑う児童も見られたが次第に慣れ、田植え体験を楽しんでいた。苗の束から3～5本ずつ、均等な間隔で植えなければいけないことや腰を曲げながら行わなければいけないことなど、手作業による田植えの大変さを実感した児童も数多くおり、稲作への興味・関心を高めることができた。「自分たちが植えた稲の成長を楽しみにしている」等の感想も聞かれ、意欲をもってこの先の活動に臨もうと

する児童の思いを知ることができた。

稲が育った9月下旬には、稲刈りを行った。大きく育った稲を見て喜びの声をあげた児童もおり、稲に対する愛情も育ってきていることも感じ取ることができた。成長した稲を勢いよく鎌で刈り、コンバインまで運んで脱穀する作業をペアで行った。大汗をかきながらも、集中していつまでも取り組む姿から収穫の充実感を感じている様子だった。その後、刈り取ったもち米で餅つきを行った。重そうに杵を持ち上げながらも、ついたときにいい音が鳴ると、周りの児童から歓声や拍手が起こり、どの児童も早く食べたそうにしていた。つくたてのお餅をたくさん食べ、笑顔になっている様子も数多く見られた。3回の体験活動ではあったが、大野の水についてあらためて考えたり、ふるさとに愛着や誇りをもったりする活動になった。



②「大野の水 まもり隊」(4年生)

3年生で「イトヨ」について学び、イトヨが生息するためには年中水温がほぼ一定で、しかもきれいな水が大切であることを知り、話し合った結果、「水」をテーマに学習を進めることになった。



まず、大野の水を調査する活動を行ったところ、川の水はまだそれほど汚れていないことが分かった。しかし、川にはたくさんのごみが流されていることに気づき、きれいな水を守るために、自分たちで木瓜川の清掃活動を行うことにした。

また、大野の水道や地下水について学習したり(社会科)、大野のおいしい水を利用して作られる食べ物を調べたり、実際に食べたりして自分たちが水に恵ま

れていることを実感した。大野市主催の「水のがっこう」の講座では、大野の地下水のことだけでなく、東ティモールなど世界の水事情についても多くのことを学び、改めて水の大切さを感じることができた。

さらに、大野の地下水が減ってきていることを知り、大野の水を守るために私たちにできることを調べ、冬休み節水作戦を行った。この作戦は家族にも協力してもらい、「水道の水はこまめに止める」「洗濯のすすぎは1回」などの節水に取り組んだ。EM菌を使ってプールの水をきれいにする活動も行った。これらの体験活動で学んだことを劇や替え歌にまとめ、校内の学習交流会で発表した。他の学年にも、自分たちが考えたことを伝えることができ、児童は満足した様子であった。

様々な活動を通して、大野は水に恵まれていることや、水の大切さについて理解を深め、さらには大野の水を守るために、これからも節水を意識していかななくてはならないという思いを強めた。また、世界中の人々が水に困らないようになってほしいという願いも持つことができた。

③「有南元気イトヨ隊」(3年生)

「有南元気イトヨ隊」として、校区にある「本願清水イトヨの里」を中心にイトヨについて調べ学習を行った。1学期はイトヨの里へ行って実際にイトヨを観察したり、副館長さんから映像やクイズを用いての興味深いお話を聞いたりしながら学習を進めた。また、イトヨクイズを一人一問作成し、学年間でクイズ大会をして、イトヨに関しての理解をより深めた。クイズは校舎内にも掲示し、全校児童にもイトヨについて考えてもらった。



イトヨの里で観察をした際に、草取りや花壇の整備も行った。1学期に花を植え、夏休みは子どもたちで毎日水やりを行い、11月にはチューリップの球根を植えた。元気に泳ぐイトヨを観察できるイトヨの里は皆大好きで、職員の方のイトヨを守るための工夫や苦勞を感じながら、花壇の整備に取り組んだ。

さらに「中野清水を守る会」の会長から、大野のイトヨを守るための活動について話も聞いた。どの児童も、今はこんなにきれいな水で過ごしているイトヨは、守る会の方々の努力のおかげであることに気づき、イトヨと水のつながりを学び、「イトヨを守ることは私たち人間を守ることにつながる。」と感想にまとめる児童もいた。

(3) 地域コーディネーターの活動概要

各学年の取り組みに対し、地域とのつながりをより深めていくために、さらに工夫すると良いことや効果的な地域への発信の仕方等について提案をした。また、学校と各関係機関との連携の推進を図った。

(4) 特に工夫した事項

- ・(5年生) 昔の手作業での米づくりの大変さを感じてほしいと思い、児童の体験活動を多く取り入れるようにした。また、最後の活動で、育てた米で餅つきを行い食べるという目標を持たせることで、児童の意欲を高めた。
- ・(4年生) 大野市の4月からの地下水位の変化や、大野の地下水の歴史の学習を通して、地下水位が急激に減っていることに気づかせ、大野の水の大切さや、大野の水を守るために私たちにできることなどを意欲的に調べたり広めたりした。
- ・(3年生) 春から巣作り、産卵、赤ちゃんの誕生、と1年を通して実際にイトヨを積極的に観察するなど、体験的な活動を多く取り入れることで、児童の理解を深めることができた。

(5) 成果と課題

児童は、地域と連携したふるさと学習や実体験を通して、大野の水が大野の食文化に大きな影響を与えていること、また希少種「イトヨ」が大野の水によって生かされていることなど、大野の水と人々・生き物の関わりについて学ぶことができた。また、これからも大野の水を大切に保全していきたいという意欲の向上にもつながった。

課題としては、地理的な問題から稲の生長やその他の仕事を継続して見ることができないことや発表の練習も含めた総合的な学習の時間としての時数の確保、そして児童のより積極的な課題への関わりを増やしていくことなどが挙げられる。